



福祉人材養成機関等 連絡会議を開催

福祉人材の 確保に向けて



福祉人材の確保は重要な課題となっています。本県では、福祉人材養成校、県保健福祉部、県高齢者福祉施設協議会、県福祉協議会が連携・協働し、福祉人材の育成・確保に力を入れています。

今回はその中から、「福祉人材養成機関連絡会議」と「ほいくしカフェ」の2つの取り組みを紹介します。

盛岡医療福祉専門学校
介護福祉学科教員
長谷川江利子氏

介護士は素晴らしい仕事
同介護福祉学科2年
前川 亮さん



太田 宣承 氏

社会福祉法人光寿会理事長
特別養護老人ホーム光寿苑総
合施設長
真宗大谷派碧祥寺住職

【喜怒哀樂】は【極上のリハビリ】
介護施設職員の大切な「作法」
の一つに、「支えとは何か」「理解
者とは何か」を考え、利用者に対
してできるだけうなずき、笑うこ
とが挙げられています。

介護施設職員と施設利用者との
コミュニケーションの3Vは、

- ① ビジュアル
（表情や目の動きなど）

一人十色の個別ケア

専門職の常識は、世間の非常識
という言葉もありますが、「話す
より聞く、そして共有すること」
「少しでもその人のよき理解者に
なっていくこと」が大切です。

年寄り」と呼びます)です。施設は「その人らしさを大切」にし、「一人ひとりの個性や特技をいかす場所(施設)」でありたいと思っています。

お年寄りの「喜怒哀楽」は「極上のリハビリ」です。心の動き、感情の動きが最上のリハビリとなります。

その人が求めていること、暮らしへ寄り添うことが何よりも大切

講演では「その後」「人十色の個別ケア」「時間の使い方は、そのまま命の使い方」「家さ帰る!」などについても述べました。また、「真のリスクマネジメント」「平等感と公平感」「脱管理介護」などについても述べました。

死に際し、その生き方、逝き方に關わり、それらを肯定し、受け取り、心に留めて置くことと述べま

ました。参加した介護福祉学科の皆さんには、志のある、岩手の福祉力を高めてくれる生徒であると実感しました。

生徒の将来目標設定
の一助に

盛岡医療福祉専門
介護福祉学科教員
長谷川江利

介護士は 素晴らしい仕

盛岡医療福祉専門学校
介護福祉学科2年
津志田真依さん
もつと若い人たちが、
しつかりと高齢社会と介護
力に対する知識と認識を
持つて欲しいと思っていま
す。

現場職員の方々との交流
を通して、介護に対するイ
メージが格段に広がりまし
た。

介護福祉の

寄り添い、たわいな変化にも気付き、できるだけ気持ちを理解できる介護士を目指したい。

寄り添う 介護福祉士に 同介護福祉学科2年

ほいくしカフェ開催



保育士活動再開のきっかけに

思いを新たに

8月22日、ふれあいランド岩手で、
ほいくしカフェが開催されました。

ほいくしカフェは、保育士の資格
を有し、現在、保育園で働いていた
方々の、職場復帰のきっかけづく
りを目的に開催され、13名が参加し
ました。

当日は、ほいくしカフェ開催の経
緯の説明につづき、コーディネー
ター、アドバイザー（保育士・保育
所支援センターを通して再就職した
保育士2名）、参加者の順で自己紹

介が行われ、この中で、ほいくしカ
フェに参加しようと思ったきっかけ
なども話されました。

参加者は、喫茶店にいるような雰
囲気のなかで、「仕事への復帰を考
えているが、ブランクがあり自信が
ない」「実務経験が少ない」など、
再就職について心配なことや、不安
に思っていることなどを打ち明け、
アドバイザーからの助言に熱心に耳
を傾けていました。

閉会予定時刻が過ぎても参加者の
話はつきず、保育士への復帰に向
け、思いを新たにしていました。

活発な意見を交わす

8月3日、ふれあいランド岩手
で、福祉人材養成機関連絡会議が
開催されました。

同連絡会議には、県内の高等学
校、専門学校、短期大学、大学の



福祉人材養成校からは、「福祉・
介護の生徒数が減少している」、「
学生が介護施設に就職するにも
保護者の意見が大きいように感じ
る」、「経済的に厳しい状況に置か
れている学生が増え、修学資金貸

様々な関係機関と連携・協働
県高齢者福祉施設協議会からは

福祉人材養成校12校と、県保健福
祉部3課（室）、県社会福祉協議
会福祉人材研修部が参加していま
す。今回は、県高齢者福祉施設協
議会、県介護福祉士養成施設協会
との情報交換会も併せて開催し、
施設福祉人材の養成・確保を図る
ため、活発な意見が交わされました。

付制度を利用する学生が増加して
いる」となどとが報告されました。
また、「介護職の社会的認知度
をあげることが必要」、「県外に就
職する卒業生が多く、地元定着が
課題である」となども話され、「
学生だけでなく、保護者に福祉
への関心を持つてもらうことが大
切であり、県や県教育委員会と
いった関係機関が連携して取り組
むことが必要」との意見が出され
ました。

現状だけでなく、将来的にも福
祉・介護人材の養成・確保は大き
な課題であることから、福祉人材
養成機関等連絡会議では、様々な
関係機関との一層の連携・協働を
目指しことを確認しました。

「高齢者は増加しており、介護人
材不足は深刻」「施設では学生の
就職を望んでいるが、人手不足の
現場では即戦力が必要」「介護職
の社会的必要性認識のためには、
関係者の協議だけでなく、国の施
策（仕組みづくり）が必要」など
の意見が出されました。